



各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は



置戸照査法試験林において現地検討会を開催 【置戸町・網走中部署】

1月15日、置戸町にある道有林「置戸照査法試験林」において、オホーツク総合振興局東部森林室の協力により現地検討会を開催しました。

「照査法」は、スイスのビヨレイにより確立された森林施業方法で、区画ごとに林分を管理し、それぞれの成長量に見合った量を伐採することで、森林が恒続的に最高の生産力を発揮することが出来る施業方法で、この試験林は昭和30年に「照査法」を調査研究するため設けられた日本で最も古い試験林となっています。

普段あまり見る機会のない道有林の試験林について、さまざまな意見交換がなされました。

森林教室を開催 【新得町・東大雪支署】



12月16日、新得町立富村牛（トムラウシ）小中学校の全校児童・生徒を対象とした森林教室を開催しました。

クリスマスが近いこともあり、北海道でクリスマスツリーとして用いられることが多いトドマツについて、モミの木の仲間であることや、日本では北海道にだけ生える針葉樹であることなどを説明しました。
また、トドマツの葉を

ベースにしたクリスマスリースを制作し、クルミ、どんぐり、松ぼっくり、リボン、綿などを自由に飾り付け、個性あふれる素敵な作品が完成しました。

身近にあるトドマツに目を向けることで、森林に親しみを感じてもらえたのではないだろうか。これからも、森林環境教育を通して、森林や林業に対する理解が深まるよう取り組んでいきたいと思えます。

ノルディックウォーキングとポロトの森を学ぶ 【白老町・胆振東部署】

11月29日、ポロト自然休養林保護管理協議会主催による「ノルディックウォーキングとポロトの森を学ぶ」がポロト自然休養林で行われました。

当日は肌寒いながらも天候に恵まれ、近隣の登別や苫小牧からの参加者を含め30人あまりの参加がありました。

コースは、約5kmを2時間程で歩く、ポロト湖畔を折り返すコースです。

ノルディックウォーキングの後、ポロトキャンプ場にあるビジターセンターにおいて、梅木署長より『ポロトの森を学ぶ』と題して簡単な森林教室を実施しました。



主要樹種の特徴や活用法からエソシカ食害などを話題とする中で、イタヤカエデの倒木更新の様子を仮に500年の単位で映像化して早回しにすると、立ち上がっては倒れての繰り返しとなり「歩くように見える」と表現した話には驚きの声も上り、参加者から「ウォーキングするときの視野が広がる」等の声も聞かれました。